たね彦作
国貞
十六編上

室町源氏胡蝶巻

柳亭種彦作

梅蝶楼国貞画

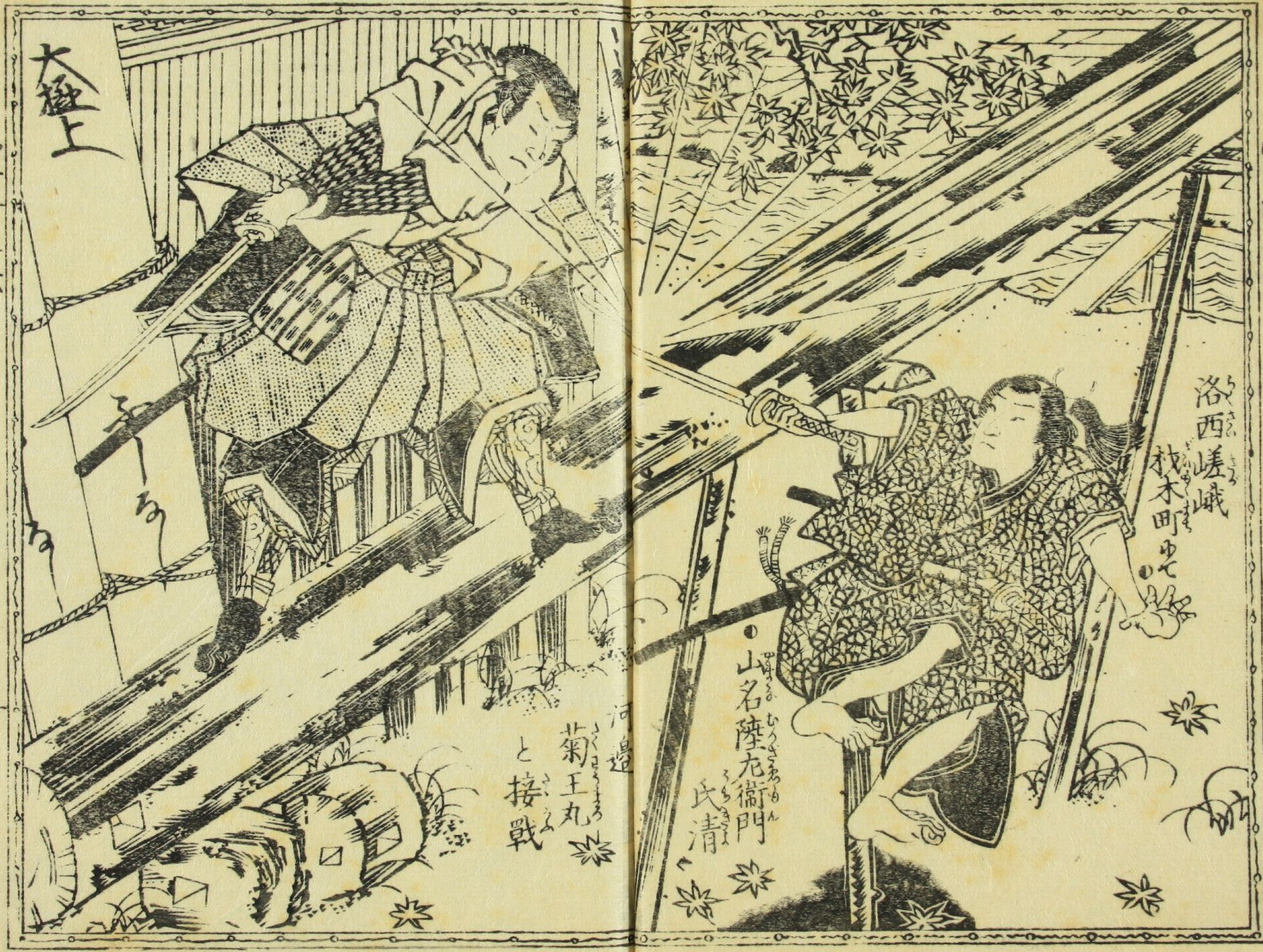
上

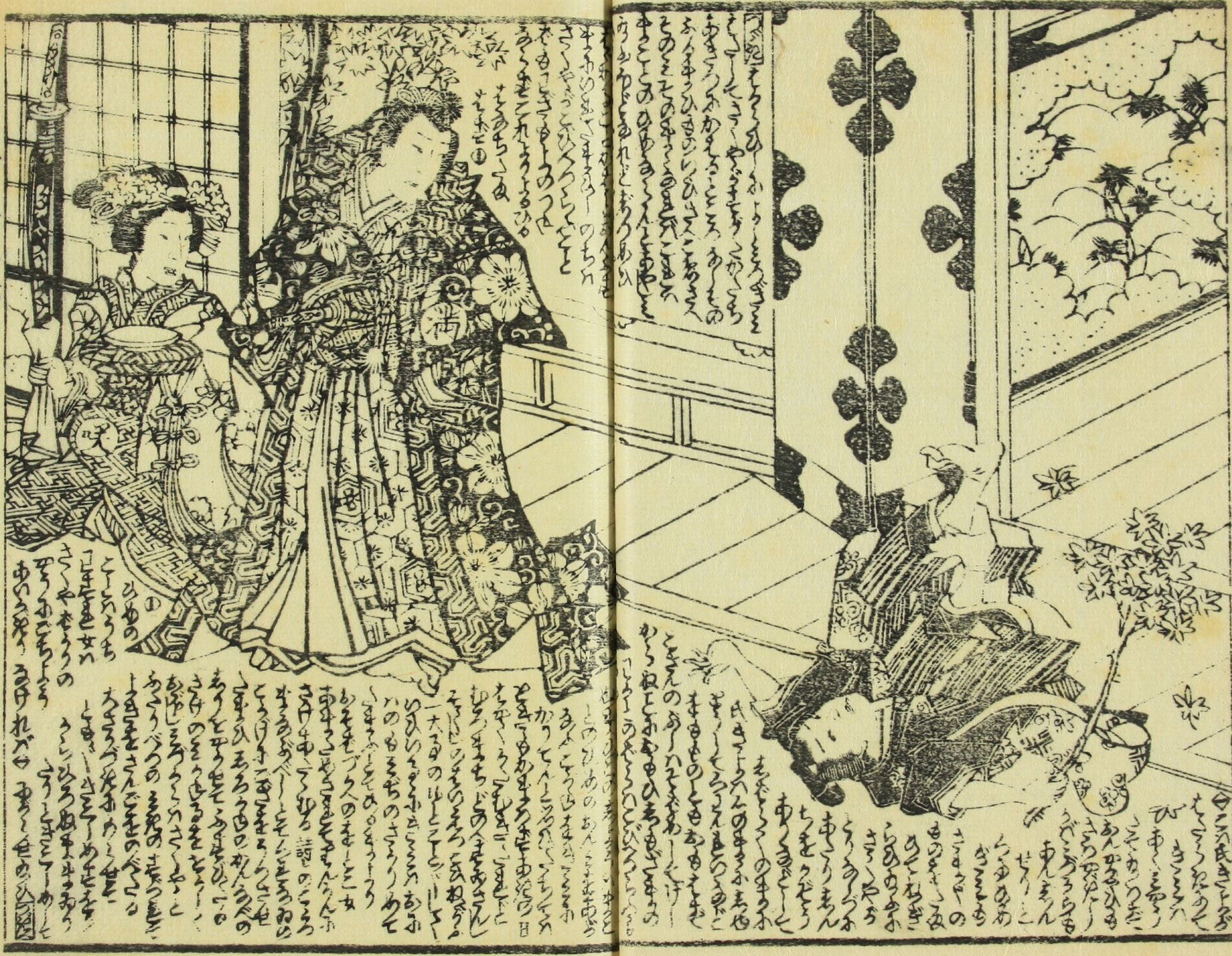
九曜文庫

源氏といへバ頼朝義經白旗を翻さむと云ひしに所思しも女の手すさび媚
かしこき物語繪の称となれるハ幾度か言事なく傍系の手柄にて
師の跡を襲む其がひに一株分し花の御所烏散を作ハ山師の天
乙坊をも雄蝶を雌蝶に變る次手是も女で着述のと云誰々も
志らせるなれど今からバ余も心つき老なりし自笑が絶筆の樂日記を
讀されバ山蔭長者の落胤の姫と家来が不見る話とす贋物を造る
悪工なと有て浮世本の好な人ハよしとせり剽竊志たるにて藍より
出て瓶覗水より出てなかぬるき書振なりと哂ひしまもなむこまでは
真に沾衣なれどもあつかりと志らさ條もなく騒々たし此物語になむ

巳年春正月

柳亭種彦


大極上
洛西嵯峨
枕木町ゆで
山名陸左衛門氏清
河邉
菊王丸と接戦



本家 實母散（じつぼさん）

さんぜんさんご
およびちのみち
一切の妙薬

中橋南傳馬町東側
千葉屋孝輔製

柳蔭月朝妻（やなぎかげつきのあさづま）
六編近日出板
山々亭有人作
梅朝樓國貞画

藪黄鶯八幡不知（やぶうぐいすやわたのやぶしらず）
五編近日出板
山々亭有人作
錦朝樓芳幾画

阿玉ヶ池擲月形（おたまがいけなげつきがた）
初編より追々出板
山々亭有人作
一陽斎豊國画

地本錦繪團扇問屋
紅英堂 蔦吉

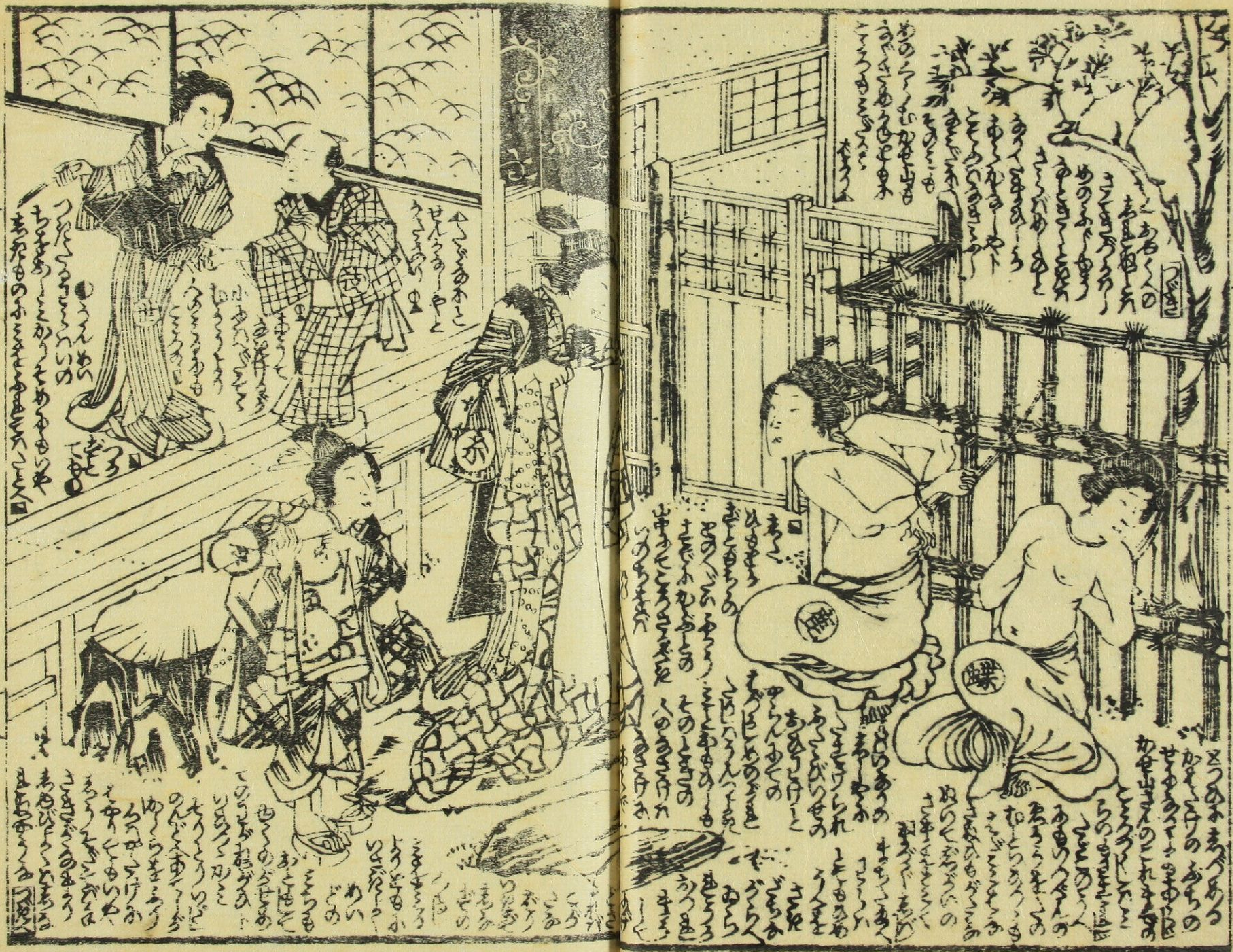
原氏
十六扇下

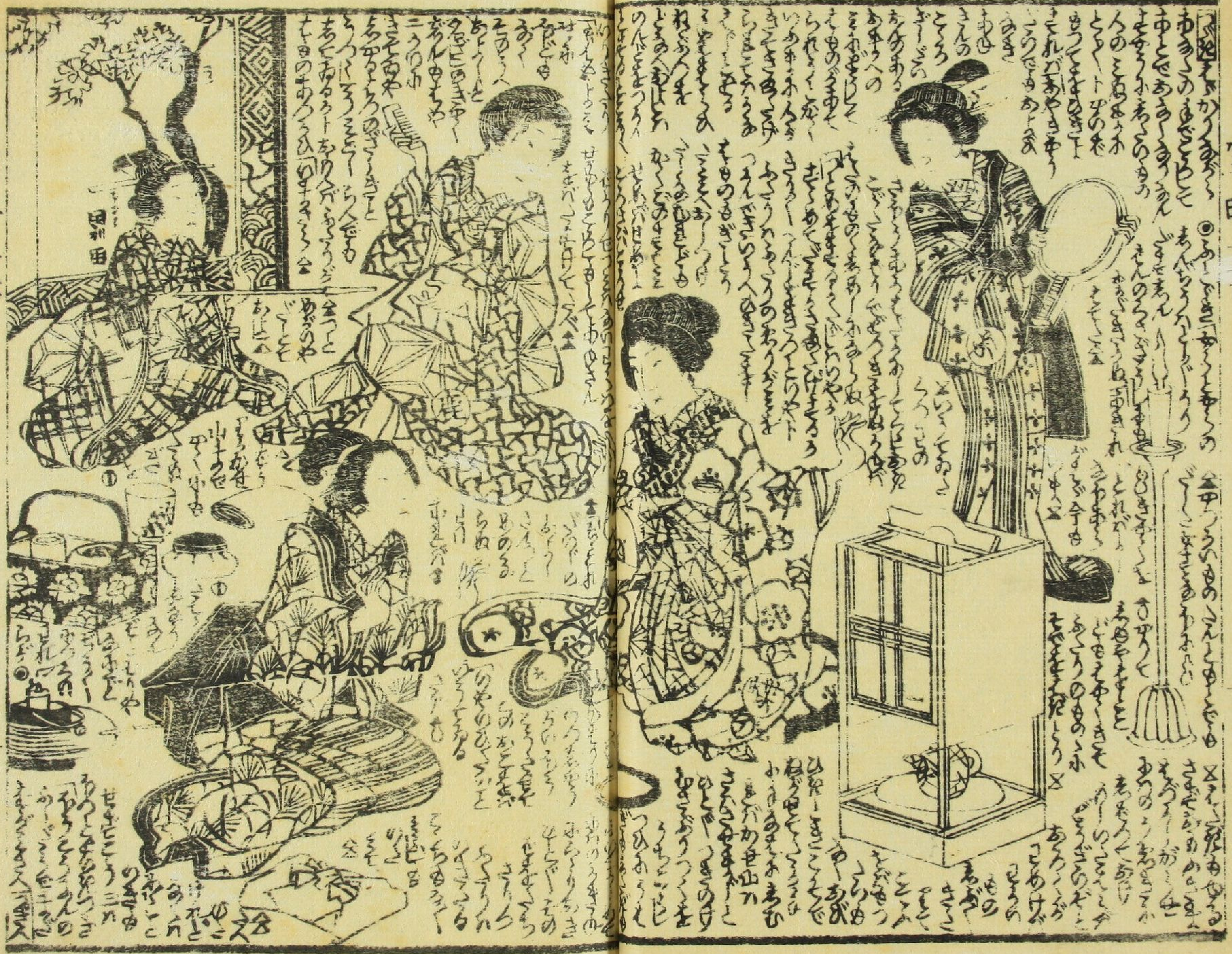
小ふ乃まき　下

亥年新版

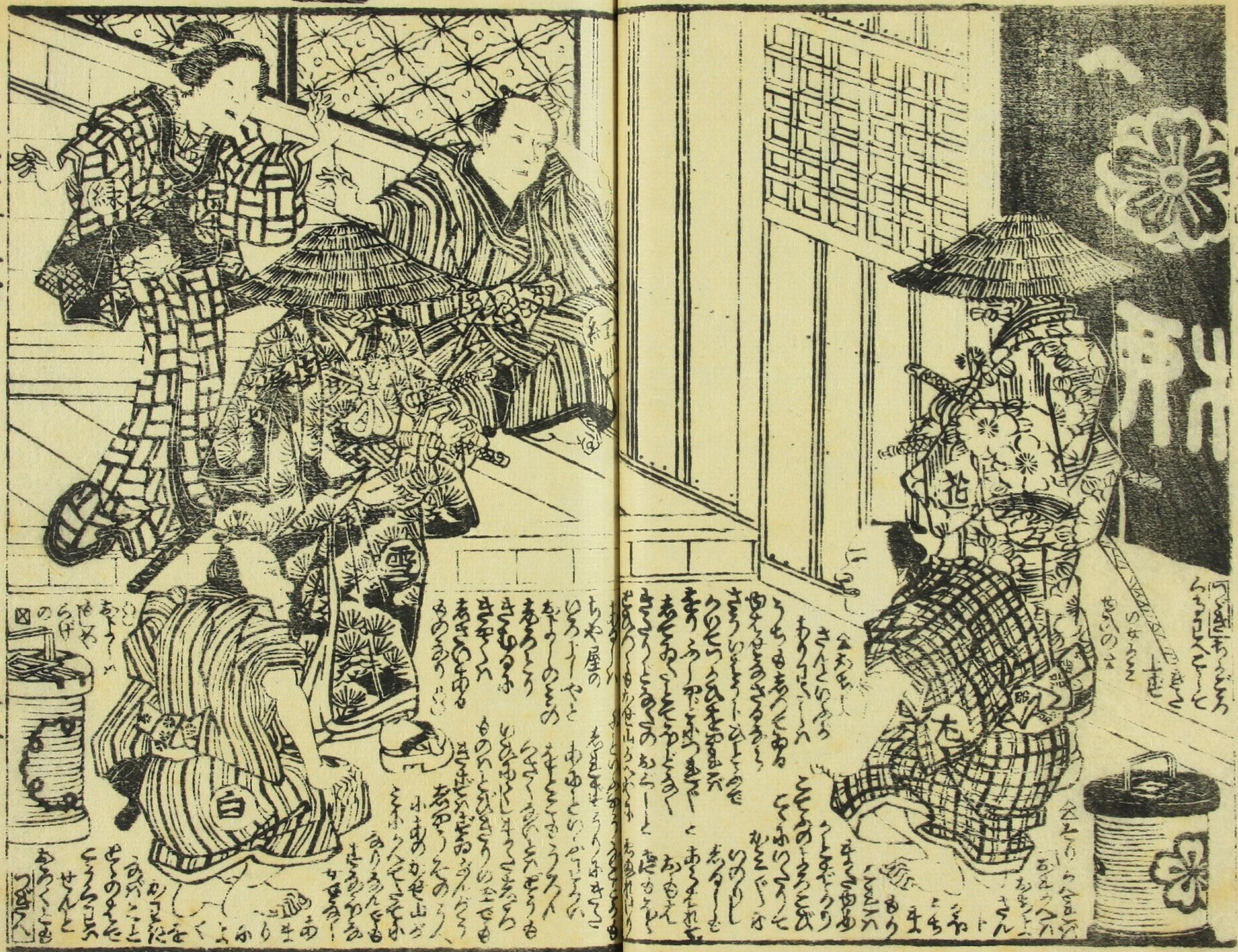
国貞画

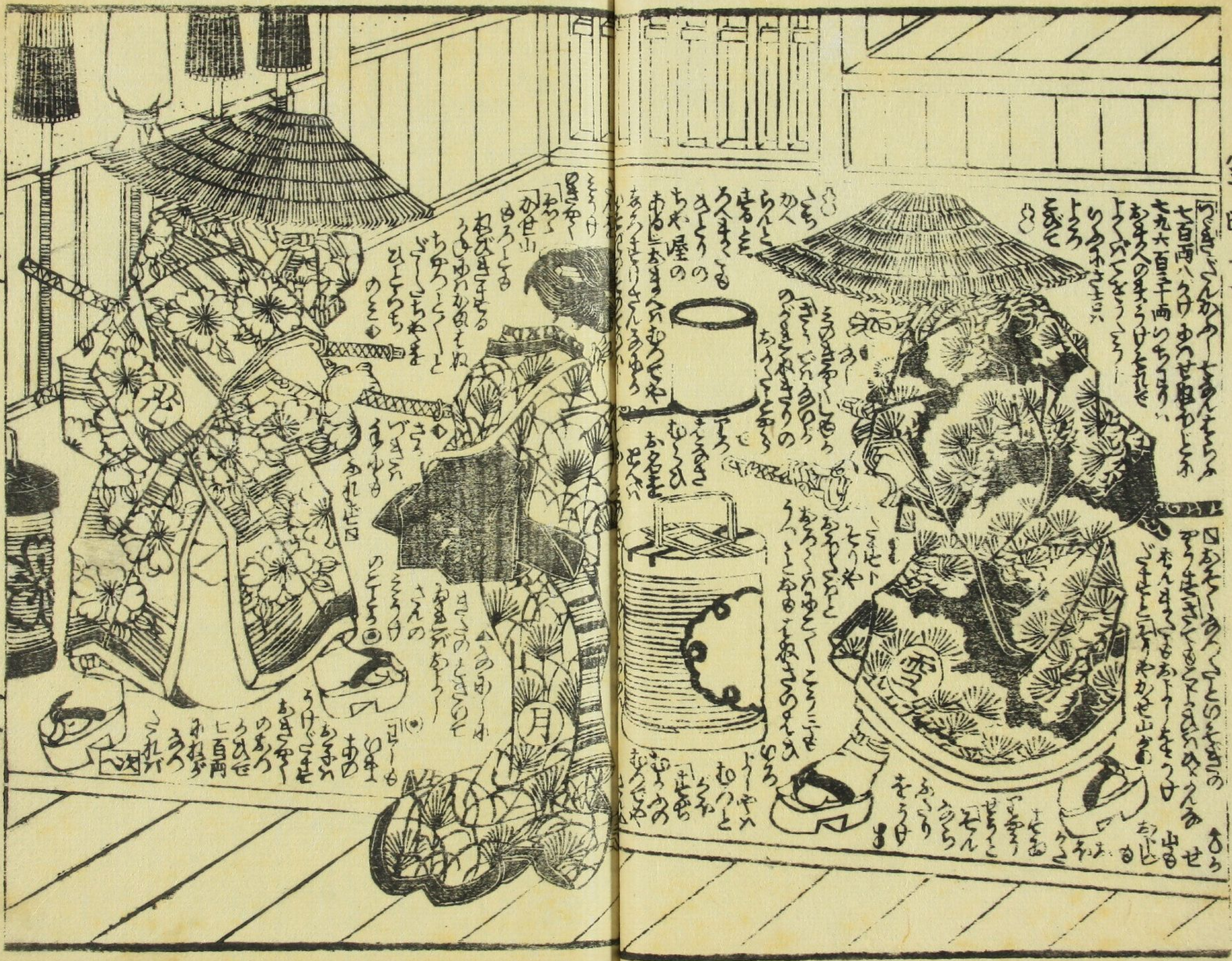
[illegible]文庫





四




雪
月
花

白
雪
松

柳亭種彦作
梅蝶楼國貞画

版元 紅英堂 欽白

明治七年甲戌陽春開板標目

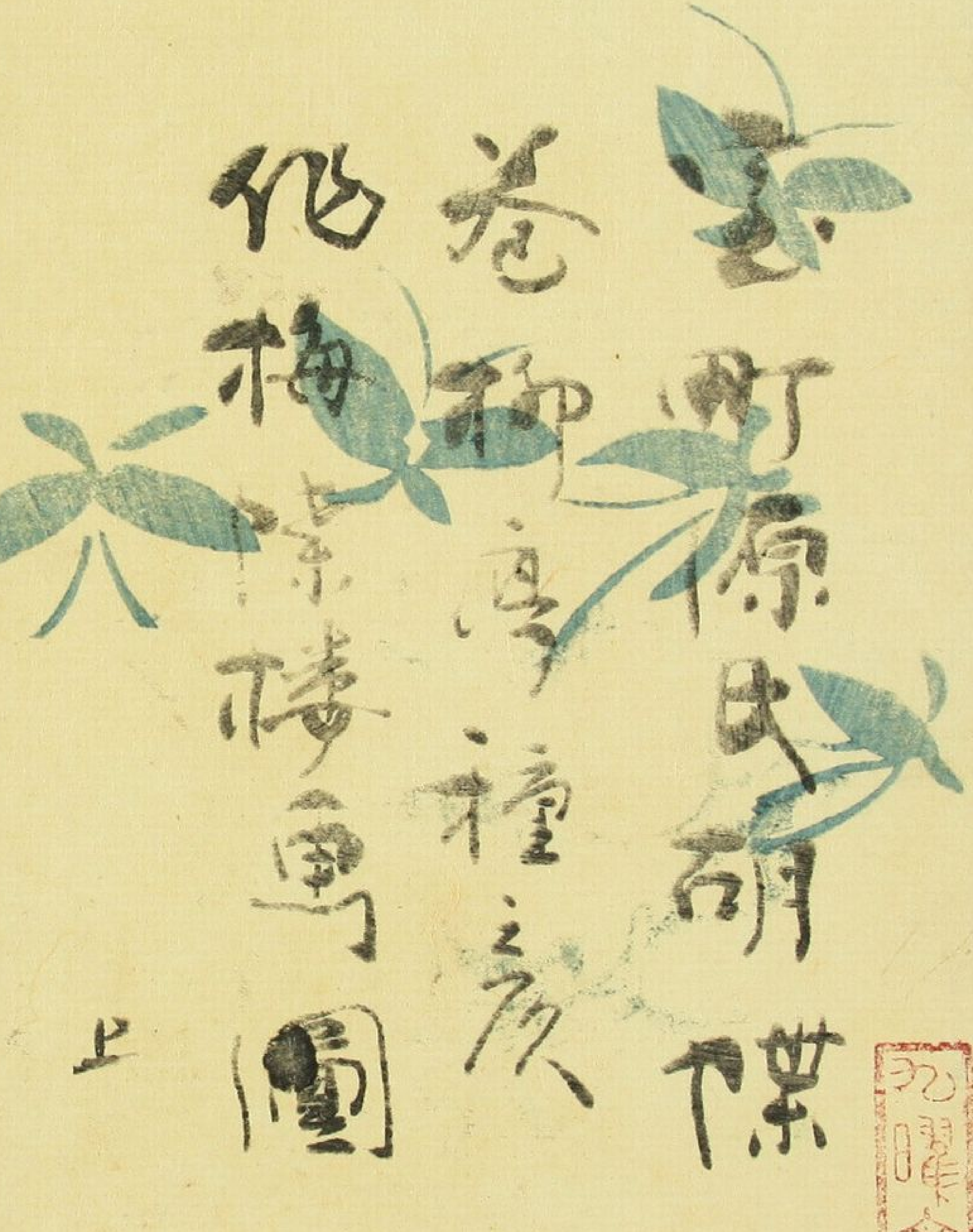
厚化粧萬年嶋田	八編 九編 十編	春水作	國貞画
室町源氏胡蝶巻	廾三 出板	種彦作	國貞画
鼠祠通夜譚	八編 出板	種彦作	國貞画
童謡妙々車	二十五 出板	種彦作	國貞画
薄俤幼日記	廾編 出板	春水作	國貞画
七嬉蔦飾譚	十迄 出板	種彦作	國貞画
新局九尾傳	十三 出板	春水作	國貞画
筆海四國聞書	十三 出板	種彦作	國貞画
明鴉墨画裲襠	十五 出板	種彦作	國貞画
花封蕾玉章	十編 大尾	種彦作	國貞画
八犬傳犬の双紙	五十五 出板	柳亭作	國政画

南傳馬町壹丁目
蔦屋吉藏板

むろ

或人自己に難じて曰卉も此編の冠首なる通氏未だ志満七なる頃南蛮渡来の鳥銃を隠し持しを國犯とて功ある賞なく罪料と極む是巻中の發端なりきるを編数程も經ぞ義満竜從に命令し鳥銃を以て賓沼を驚さんとする條あり大事に用し鳥銃なら其罪重しと言るをかゝる小吏に取用ひ義満其飛涇しと言んか餘に眼先を換んとして前後齋漏の事なりぞおやと言まそて自己もわらね顔に原来有益の品なりせバ通氏ゆゞて鍛冶に命じ其製法を納得させ器械を造手術を傳授程なく諸侯鳥銃を用ひざる所なきに到り況や義満氏の捷操小事とひへども用ひざらんやと吝に其容なかりで退きしハ自己から可笑此席に換くら

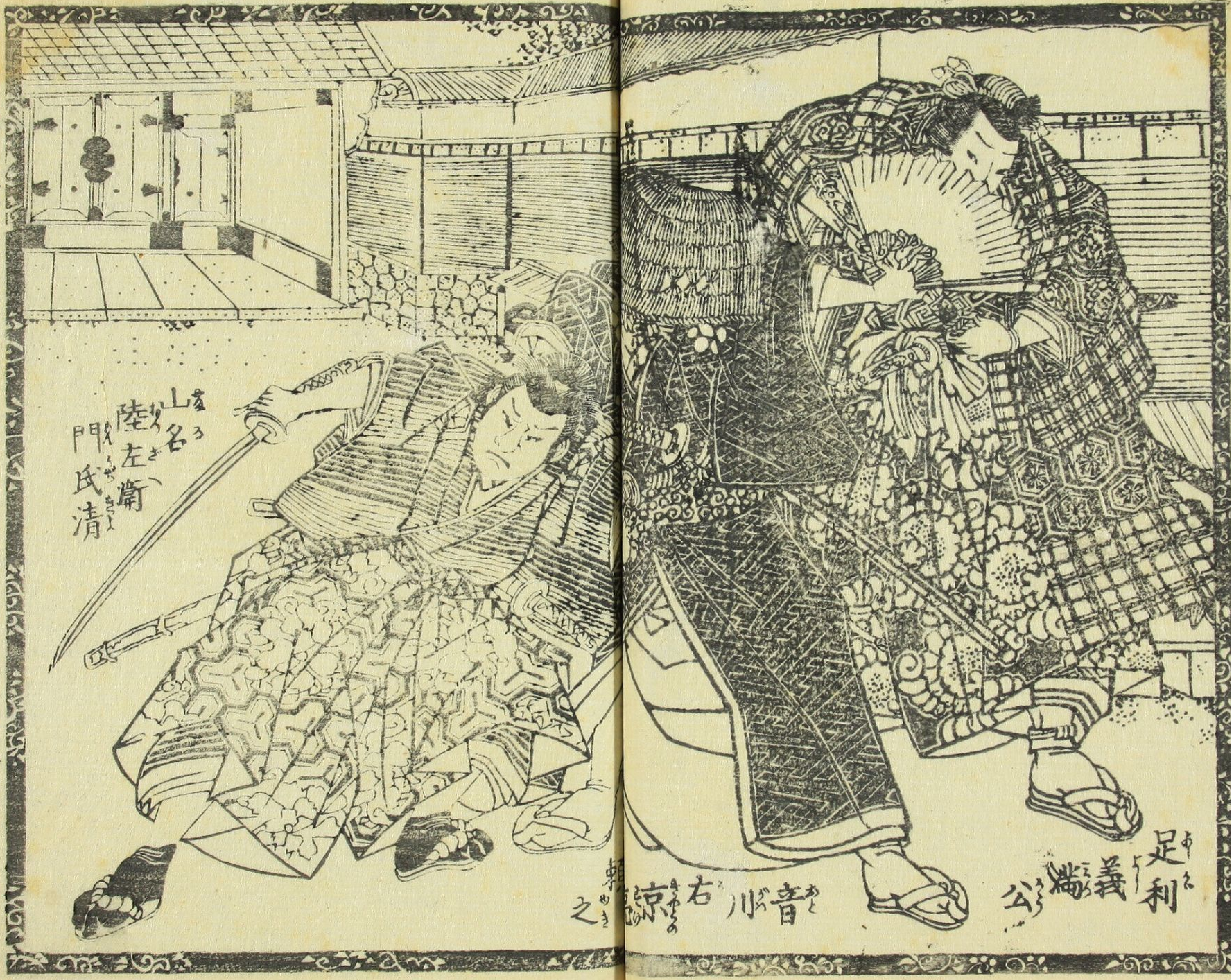
柳亭種彦記

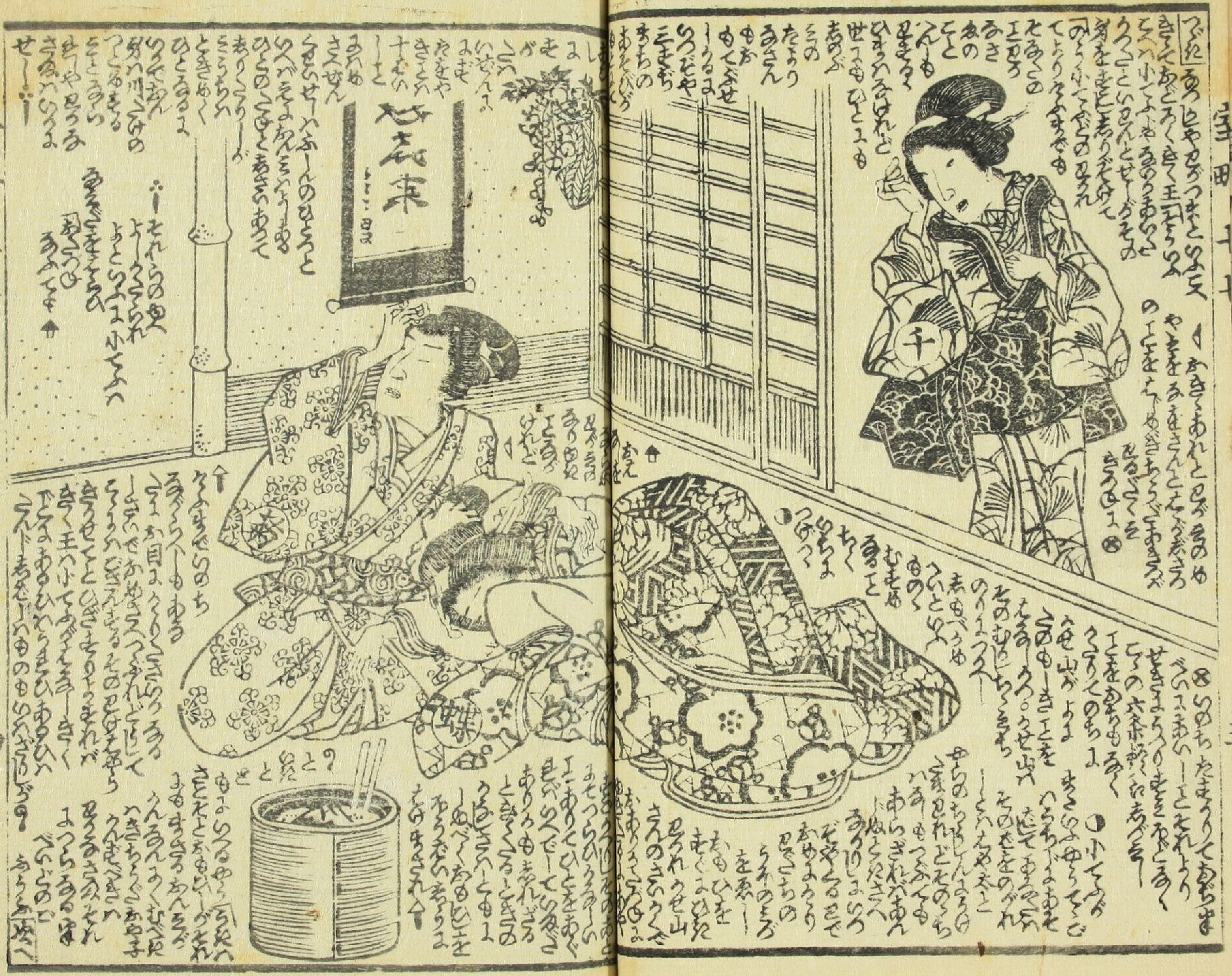


室町源氏胡蝶巻
柳亭種彦
似梅蝶楼國貞圖

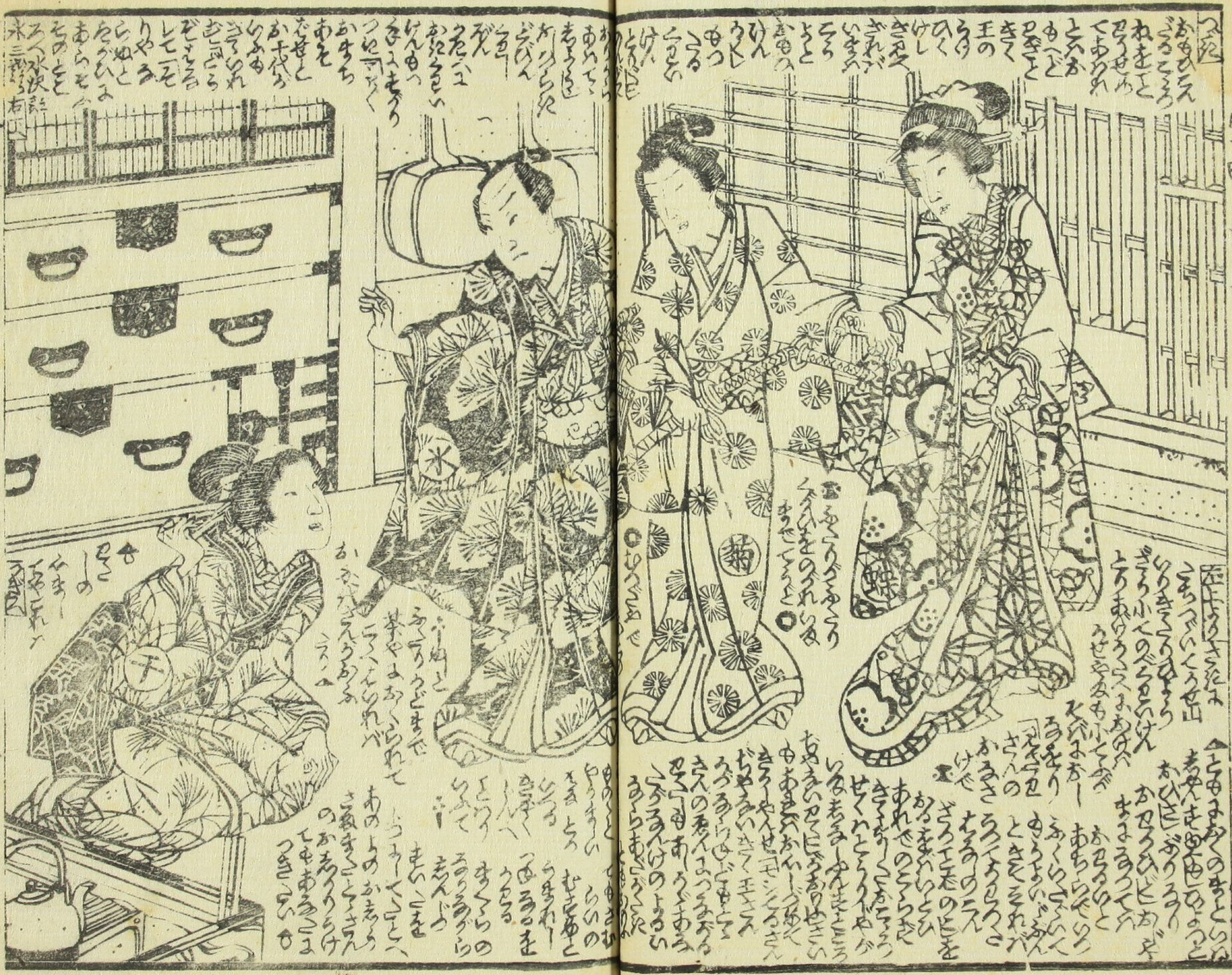
上

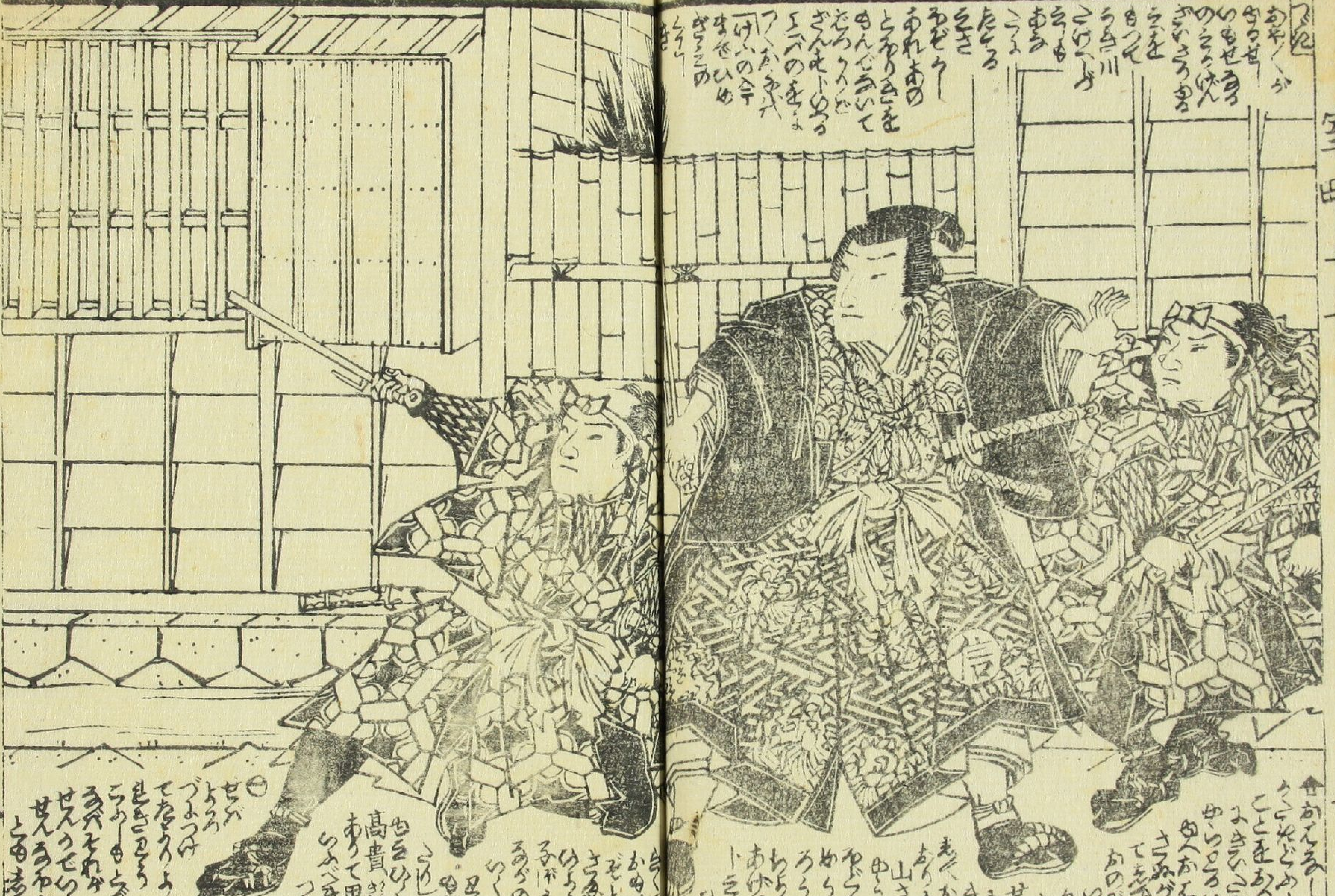
九曜文庫


足利義満公
音川右京頼之
山名陸左衛門氏清



此所小便無用





つゞき おや／＼が [illegible] のもせ [illegible] ぎやさう [illegible] ことを もつて うち川 ごけへ [illegible] こゝも あるまい こうよ たとへる とき [illegible] あれあの とろりとを もんでおいて [illegible] ざんまい [illegible] アヽ [illegible] けふの [illegible] まだひめ [illegible] [illegible]

おかん [illegible] ことを [illegible] [illegible] さうな [illegible] てきがうつぜまい [illegible] あのぞこうとも いふ [illegible] せかいの [illegible] [illegible] 山さへ [illegible] あの [illegible] [illegible] 代

[illegible] 高貴 [illegible] 男 [illegible] 山 [illegible] 女丈夫 [illegible]

せかい [illegible] [illegible]

實母散

中橋南傳馬町東側
千葉堂[illegible]製

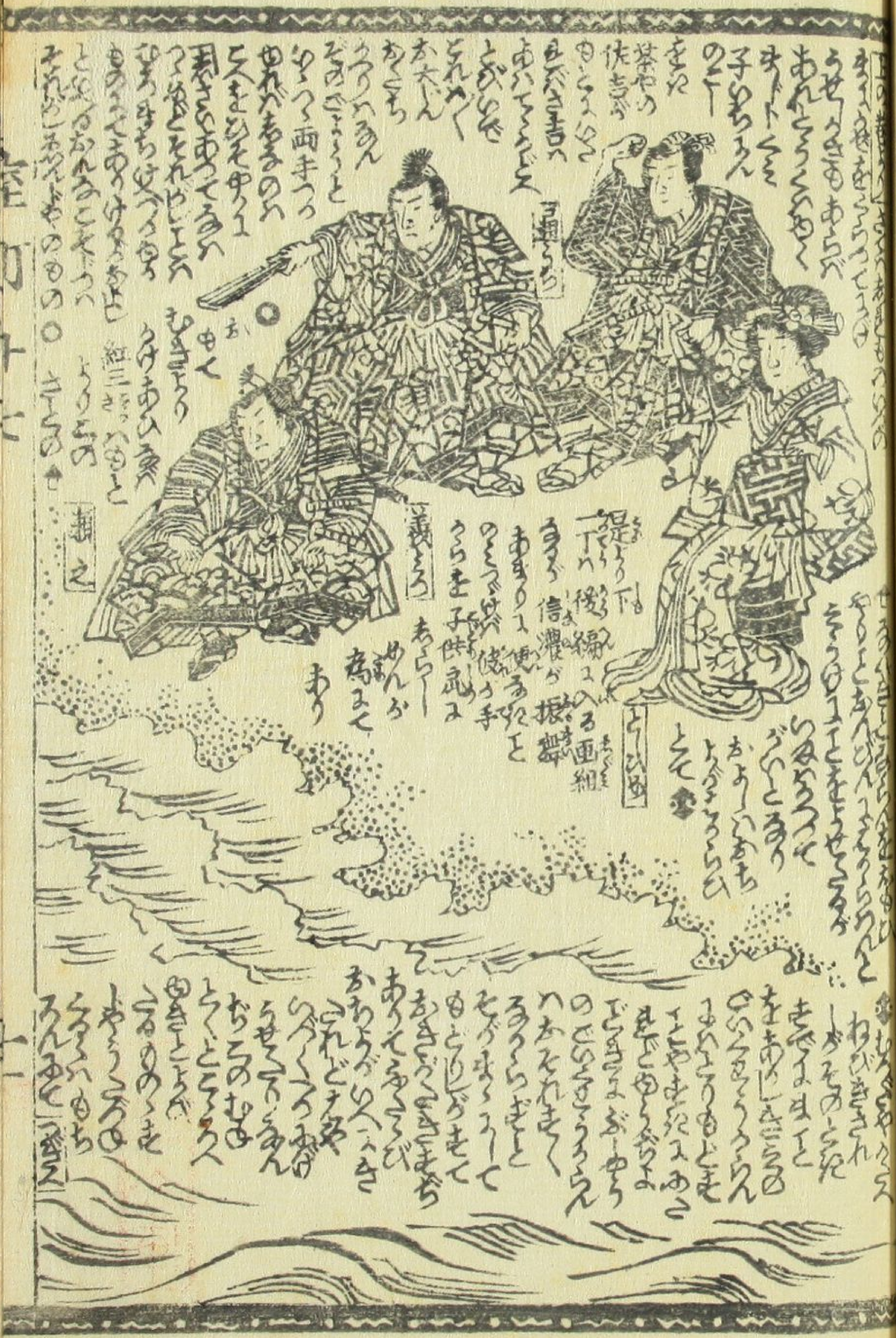
柳蔭月朝妻 六編迄 出板 山々亭有人作 梅朝楼國貞画

薮黄鶯八幡不知 五編迄 出板 山々亭有人作 錦朝楼芳幾画

阿玉ヶ池櫛月形 初編より追々出板 山々亭有人作 一陽斎豊國画

地本錦絵団扇問屋 紅英堂 蔦吉

種彦作 国貞画
十七編下



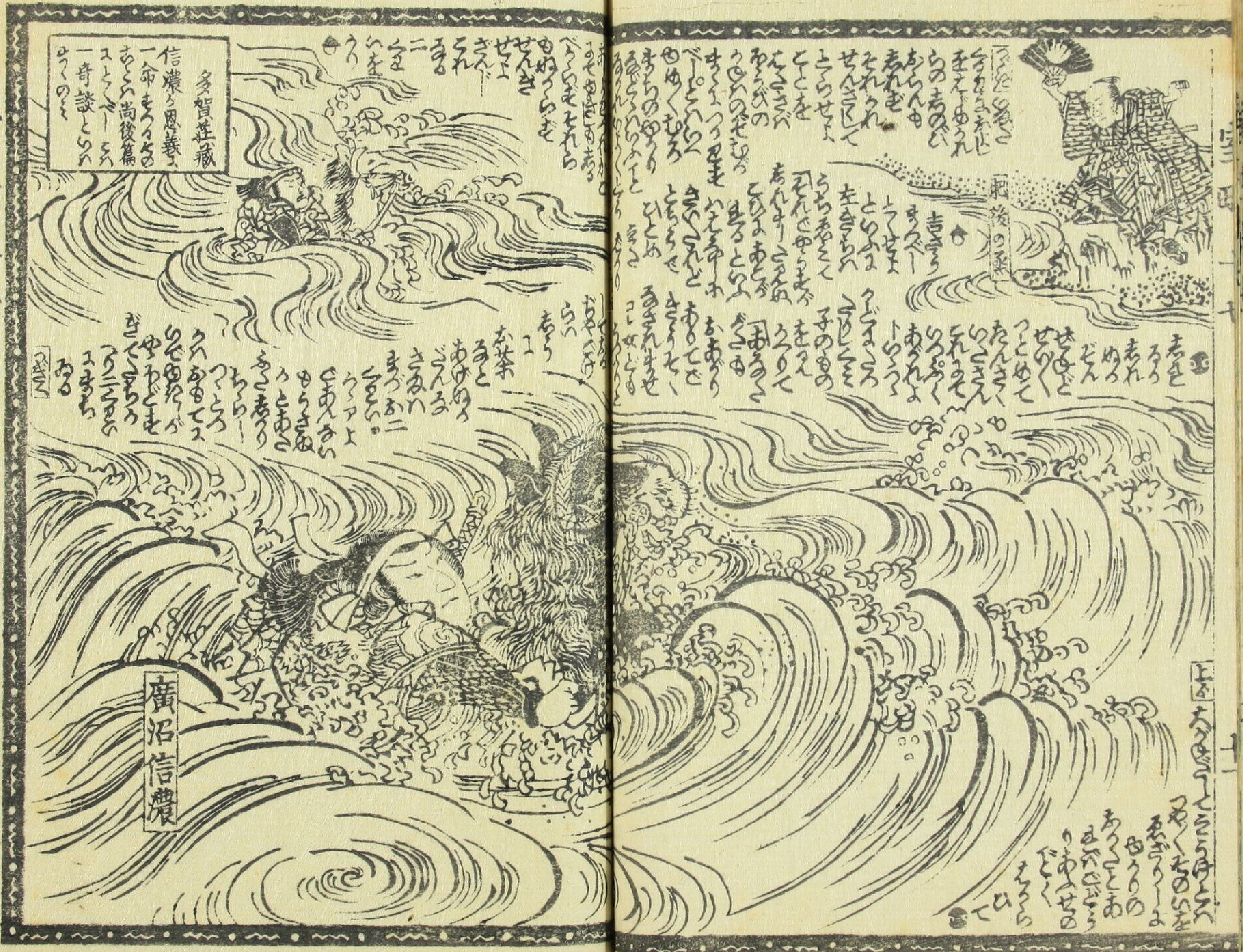
小ふね乃まき

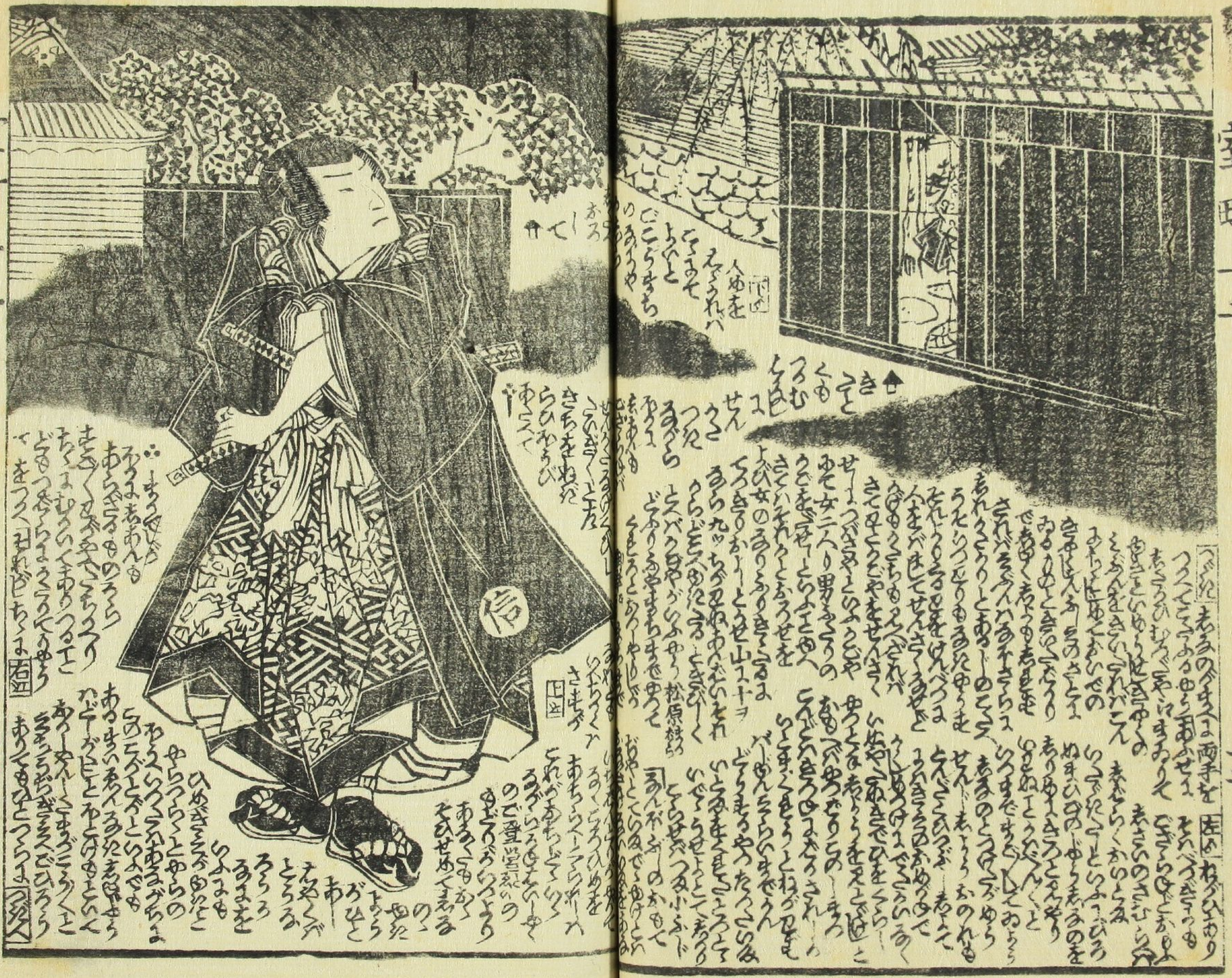
萬亭応賀編

国貞画

下

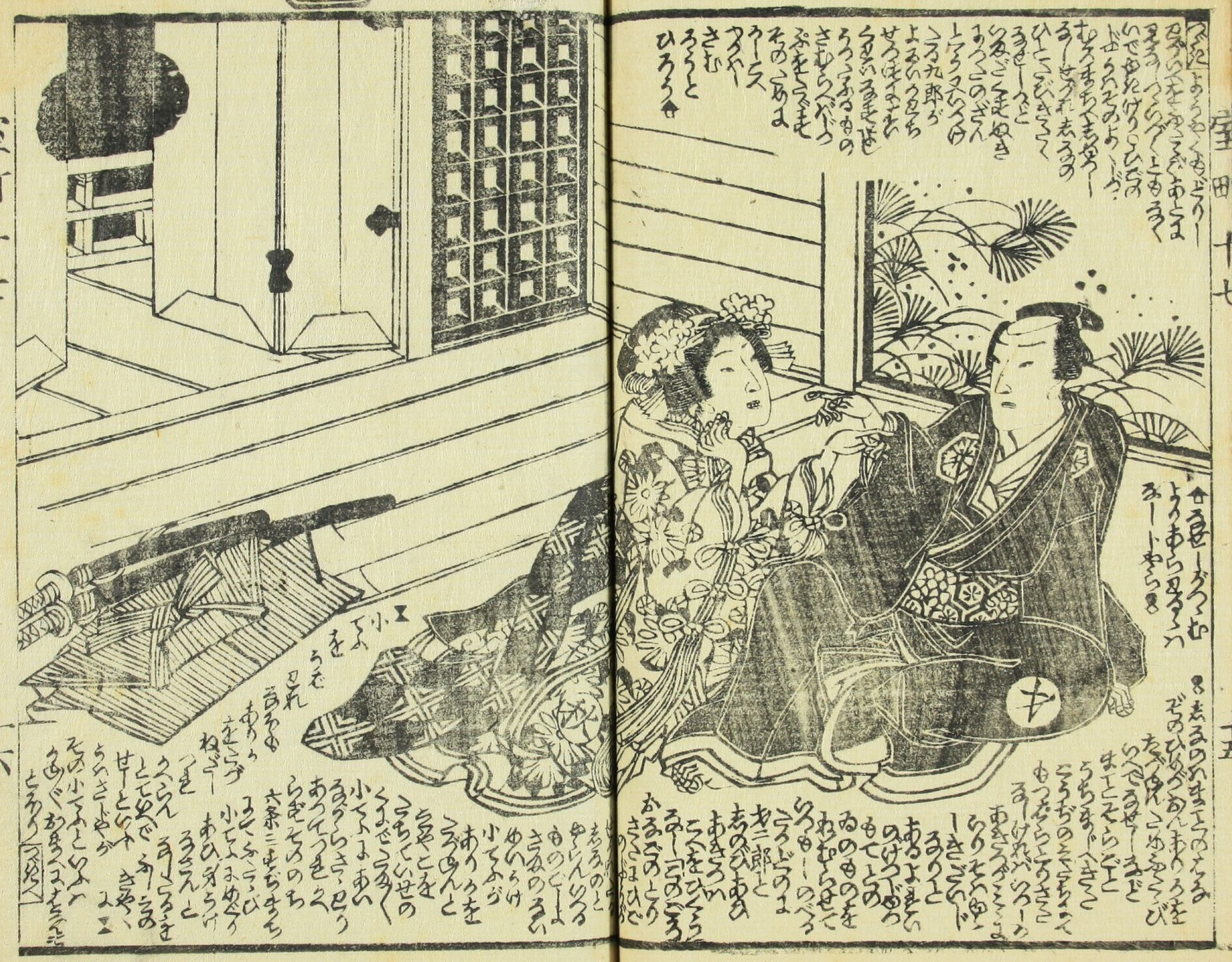
九曜文庫

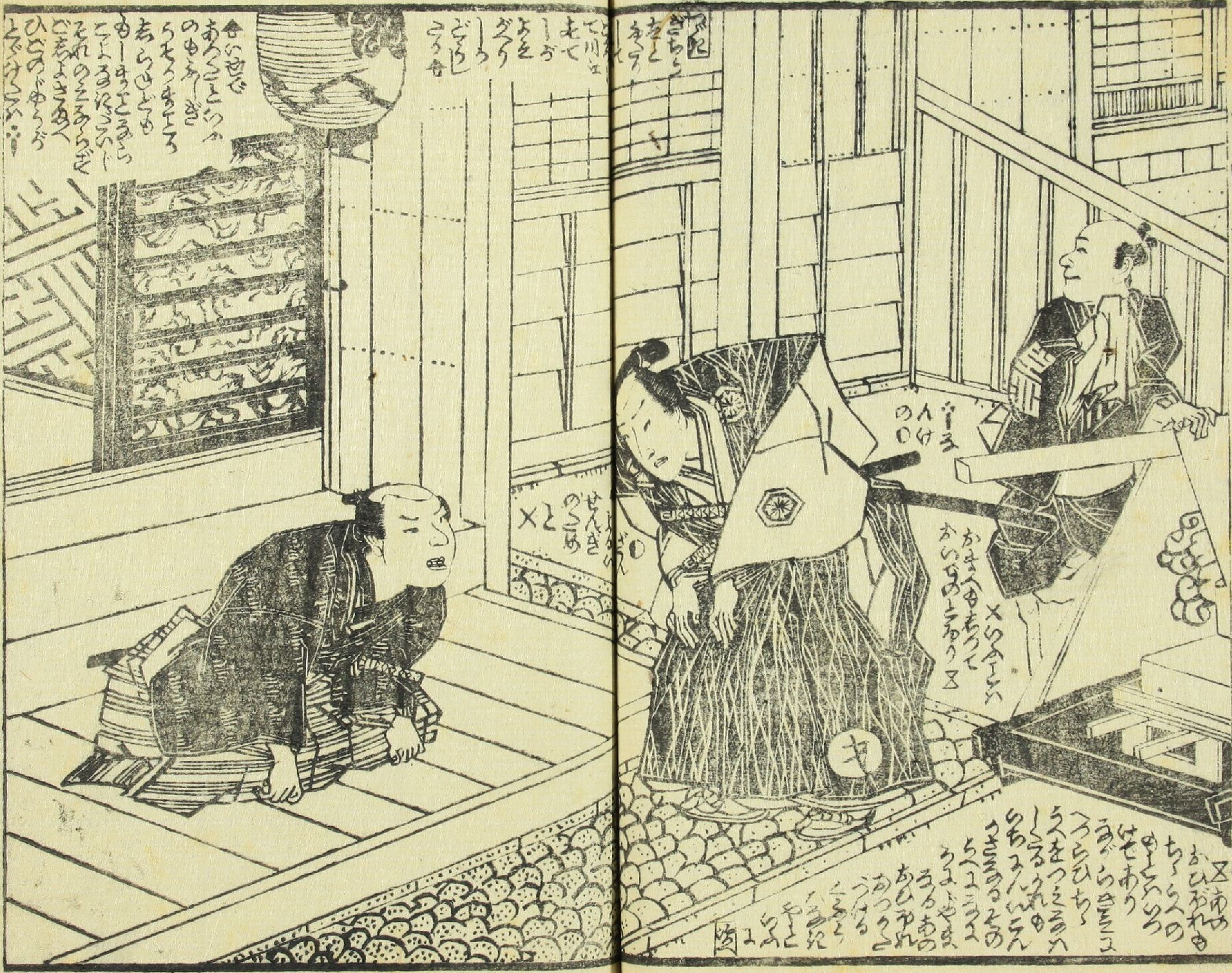

多賀甚蔵
廣沼信濃


信

右近

「つゞき」
御教書
「つゞく」





そのあと[illegible]

[illegible]

おもへて
のち治へ
ひめのためにもの
[illegible]
ちりめん[illegible]

ひめ[illegible]
きゞん[illegible]

[illegible]

ひめ[illegible]
きて ひめ[illegible]

[illegible]

尚
陸

明治七年甲戌春陽開板標目

厚化粧萬年嶋田　八編　出板　春水作　國貞画

室町源氏胡蝶巻　卅三編　出板　種彦作　國貞画

鼠祠通夜譚　八編　出板　種彦作　國貞画

童謡妙々車　二十九編　出板　種彦作　國貞画

薄倖幼日記　廿編　出板　春水作　國貞画

七婦女葛飾譚　十編　出板　種彦作　國貞画

新局九尾傳　十三編　出板　春水作　國貞画

筆海四國聞書　十二編　出板　種彦作　國貞画

明鵠墨画補譜　十九編　出板　種彦作　國貞画

花封香玉章　十編　出板　種彦作　國貞画

八犬傳犬の双紙　五十編　出板　笠亭作　國貞画

南傳馬町壹丁目
蔦屋吉藏板

柳亭種彦作
歌川國貞画

[illegible]

小の花咲屋柳
筆を立ぐ違ひ
善ゟ悪ゟ後編
又翻出べし

[illegible]

明てふ乃書

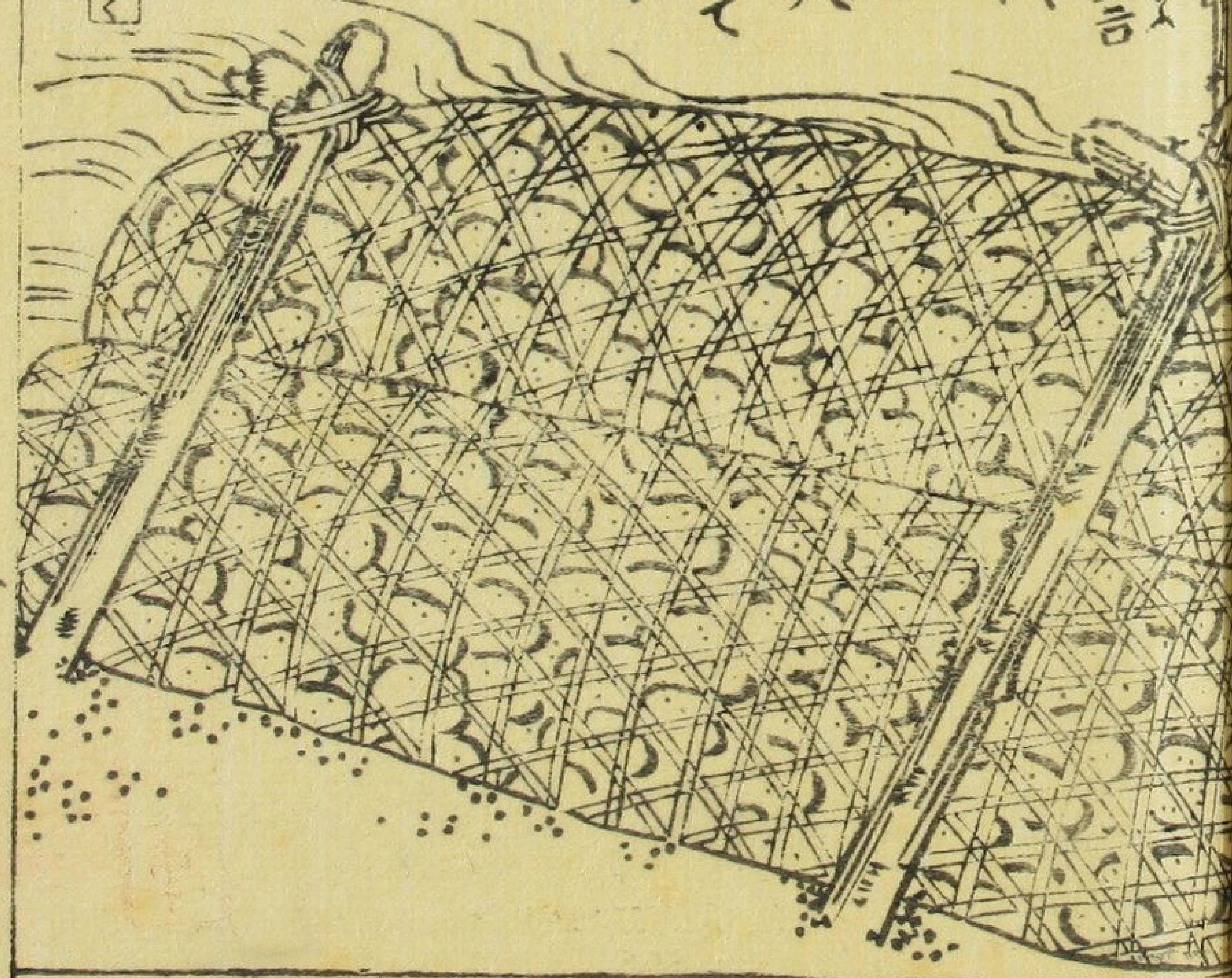
室町源氏胡蝶巻
柳下亭種員作
梅蝶楼画圖

上

□□文庫

四条河原に積塔會と言事あり這は人王五十八代光孝帝の姫宮雨夜の内親王の報恩とて盲人會して石を積平家を語て遠忌を弔ふ事に因そのあるかあらねど此巻中の座頭なる親王ならぬ菊王がなる目盲と奈良の京吉野内裏の

此次一丁おきてつゞく

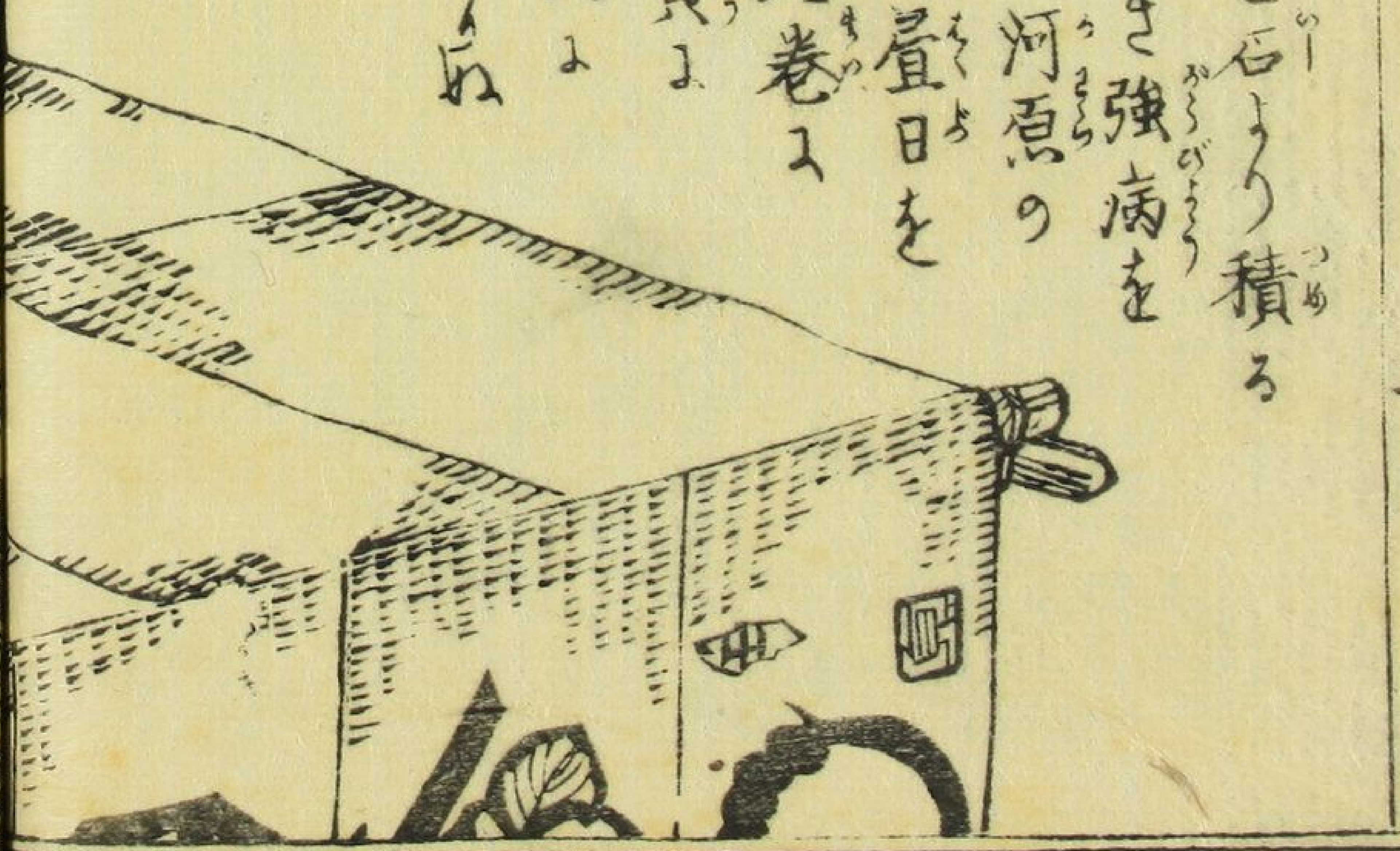


菊王丸
胡蝶
武者五郎

胡蝶巻

柳亭種彦記

旧怨と父が家朝の欝憤と石より積る意恨の数〻晴さんと難き強病を琵琶諸共に歎せしも加茂の河原の危難が侥倖悪血散じて畳日を再度拝さの条をば此巻にしも解べからしを紙員に限りあるを以て口画に出して後編にゆづりぬ



肥
睦
つゞく

[illegible]

通天橋

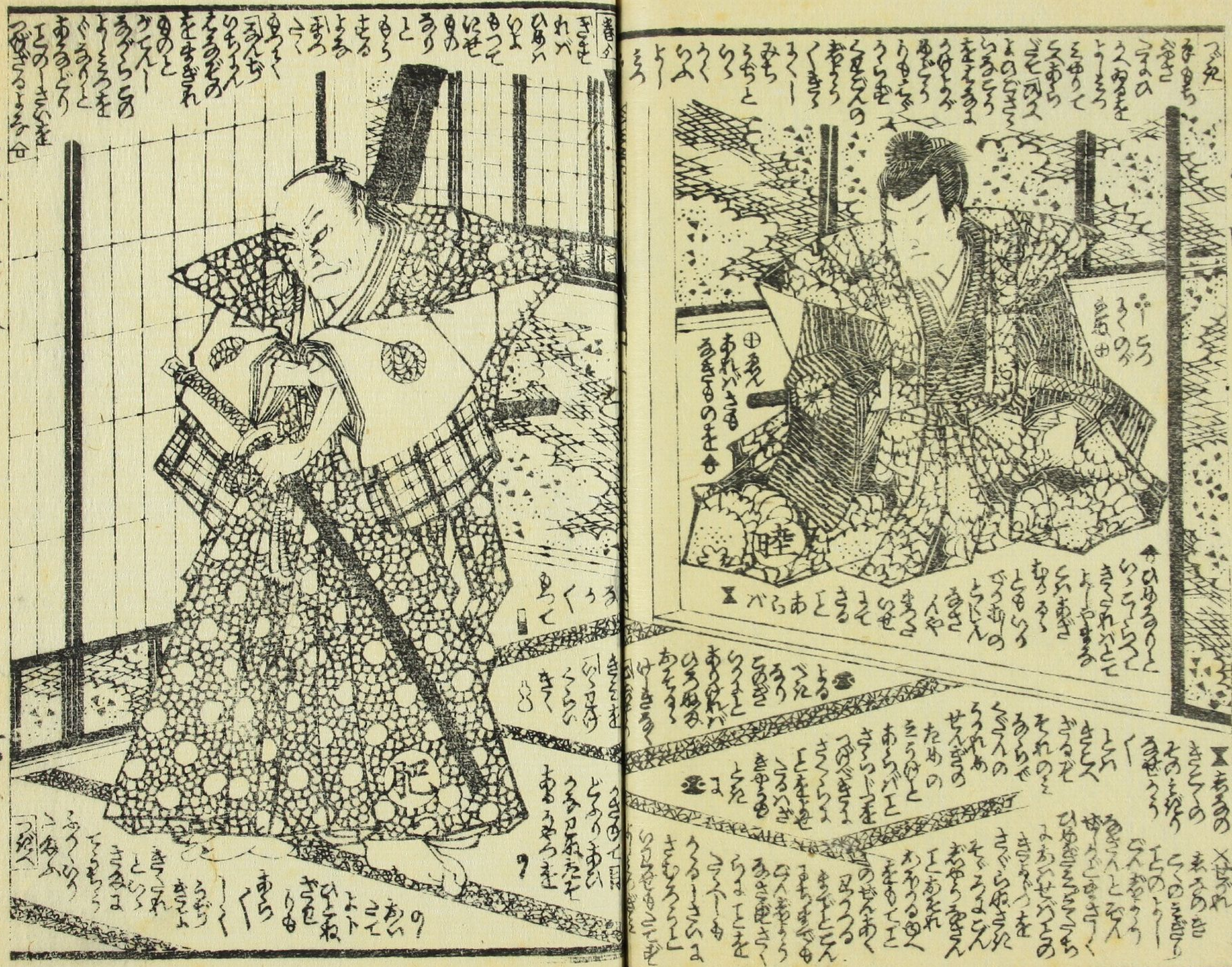
[illegible]

[illegible]

和田正補

新田

[illegible]



○かの山名もちまよ[illegible]
よびよせとおもひしに[illegible]
おや[illegible]
[illegible]
ちからぞえ[illegible]
[illegible]
ふところの[illegible]
[illegible]
もつてきたのごとく
せんおん
[illegible]
ごとく
いつその
あんきつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
あくびら[illegible]
そくぎ[illegible]
どうりて[illegible]
[illegible]
ありまする[illegible]
おすべきぞ
[illegible]

とり
すー
もう
まぶし
さまき
みくを
[illegible]
それがし
ひめの
のりと
のうりを
つとめし
[illegible]
[illegible]
[illegible]
きのこ[illegible]
[illegible]
そのし[illegible]
しての[illegible]
[illegible]
[illegible]
三代[illegible]
[illegible]
[illegible]

○[illegible]
○山名[illegible]
[illegible]

睦

美酒嘉肴
左より

本家 實母散

さんぜんさんご ちのみち 一切の妙薬

中橋南傳馬町東側 千葉堂孝翁調製

柳蔭月朝妻 六編近出板 山々亭有人作 梅朝樓國貞画

藪黄鶯八幡不知 五編近出板 山々亭有人作 錦朝樓芳虎画

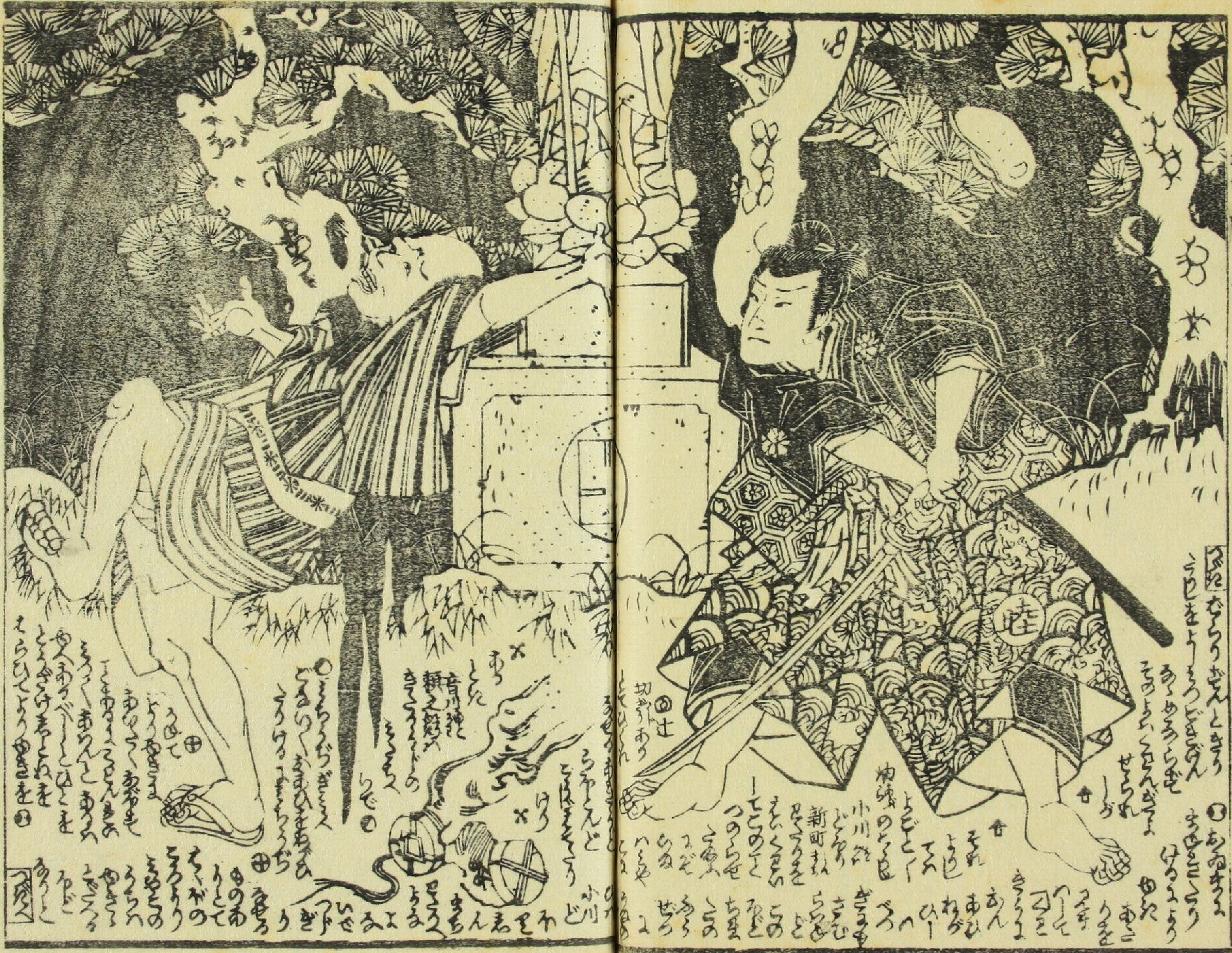
阿玉ヶ池櫛月形 初編より追々出板 山々亭有人作 一陽斎豊國画

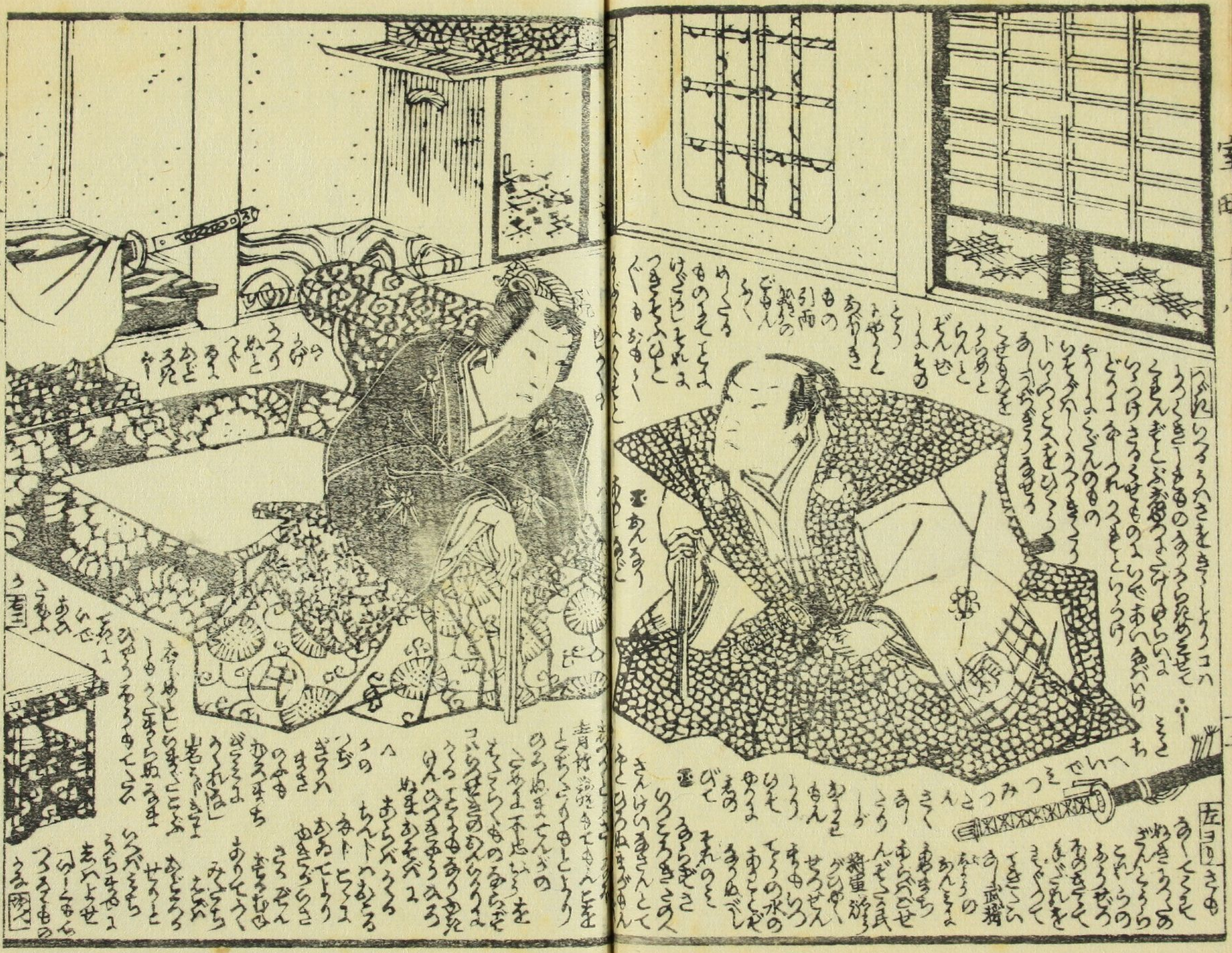
地本錦繪團扇問屋 紅英堂 蔦吉

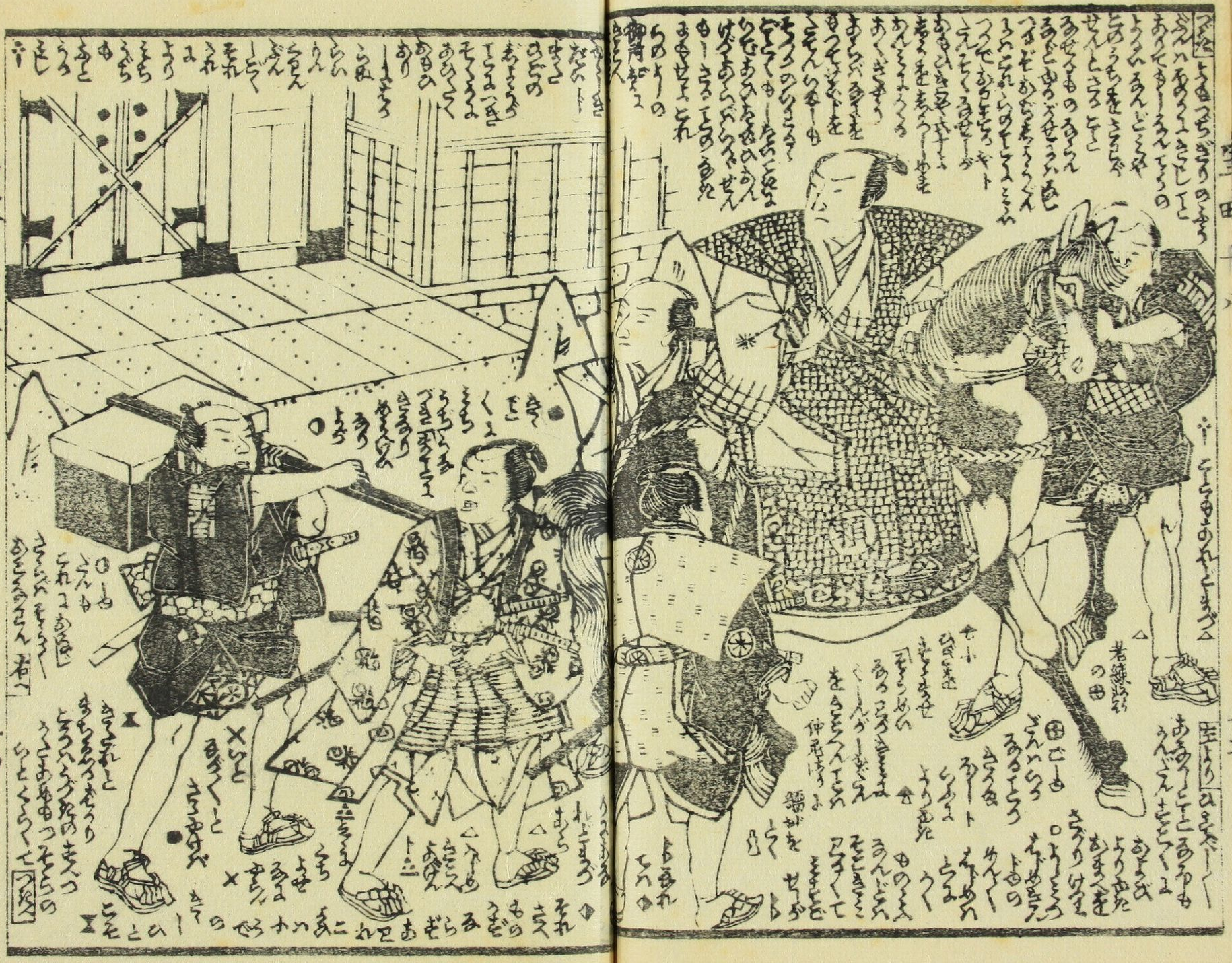
十八扁下

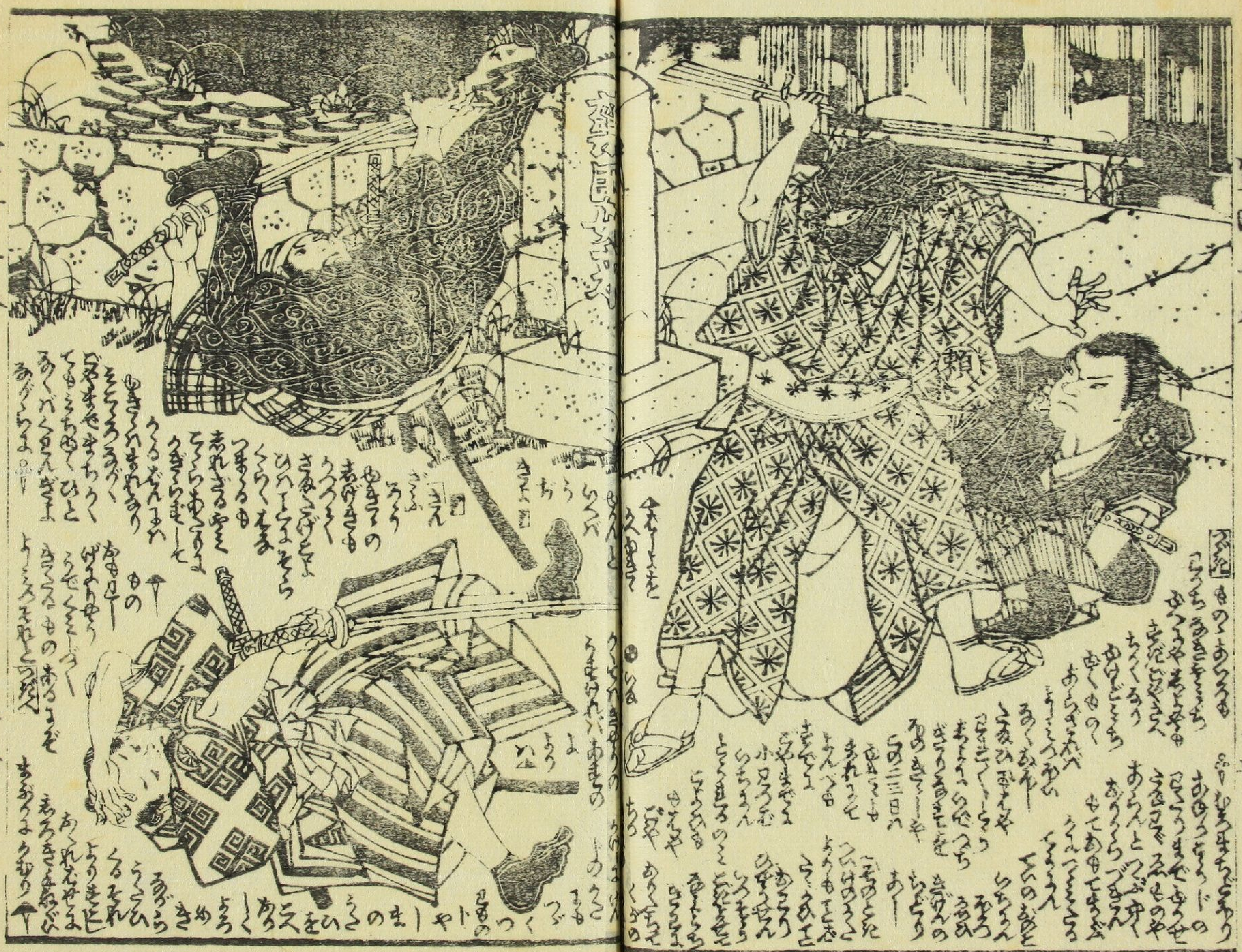
小てふ乃さゝやき

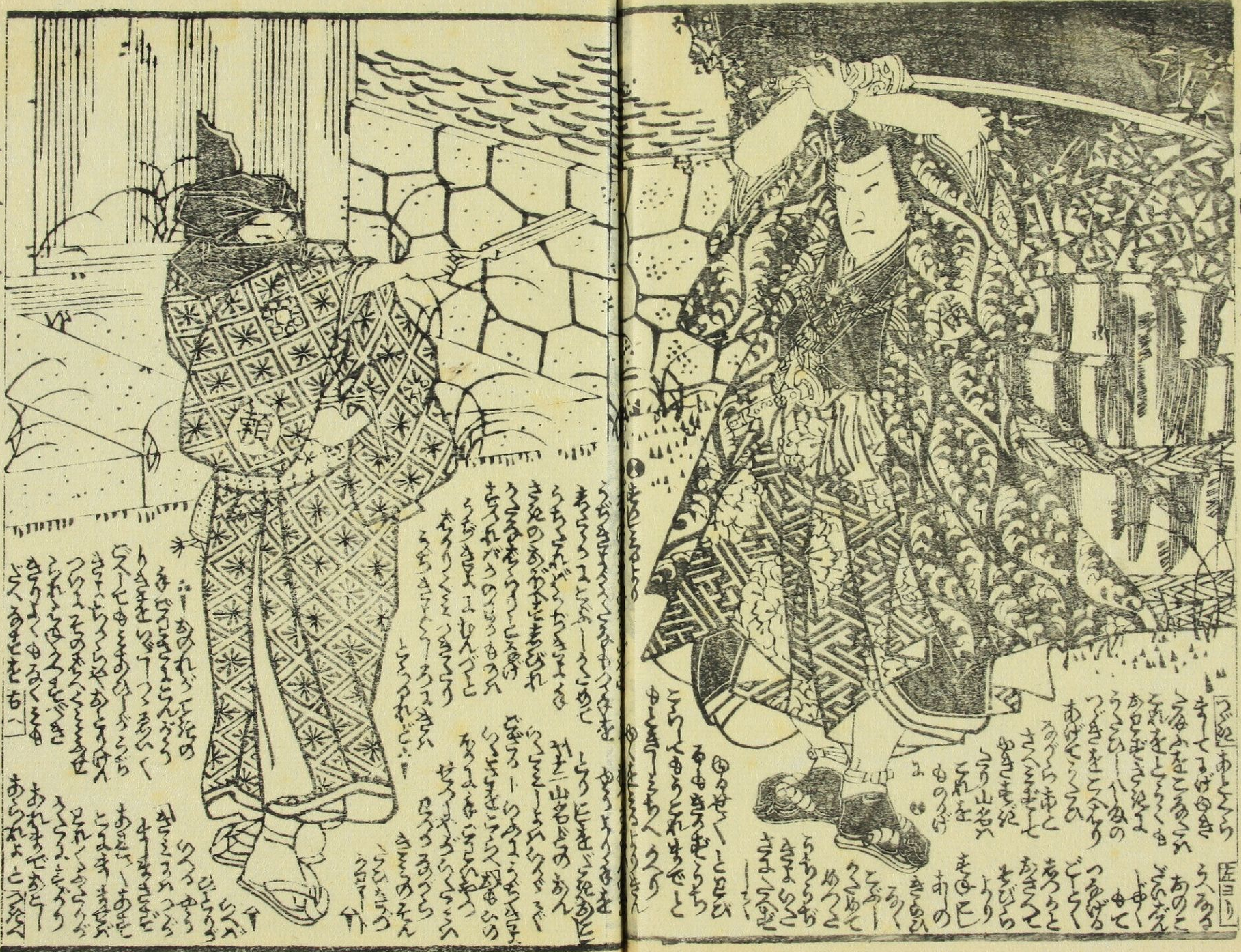
下

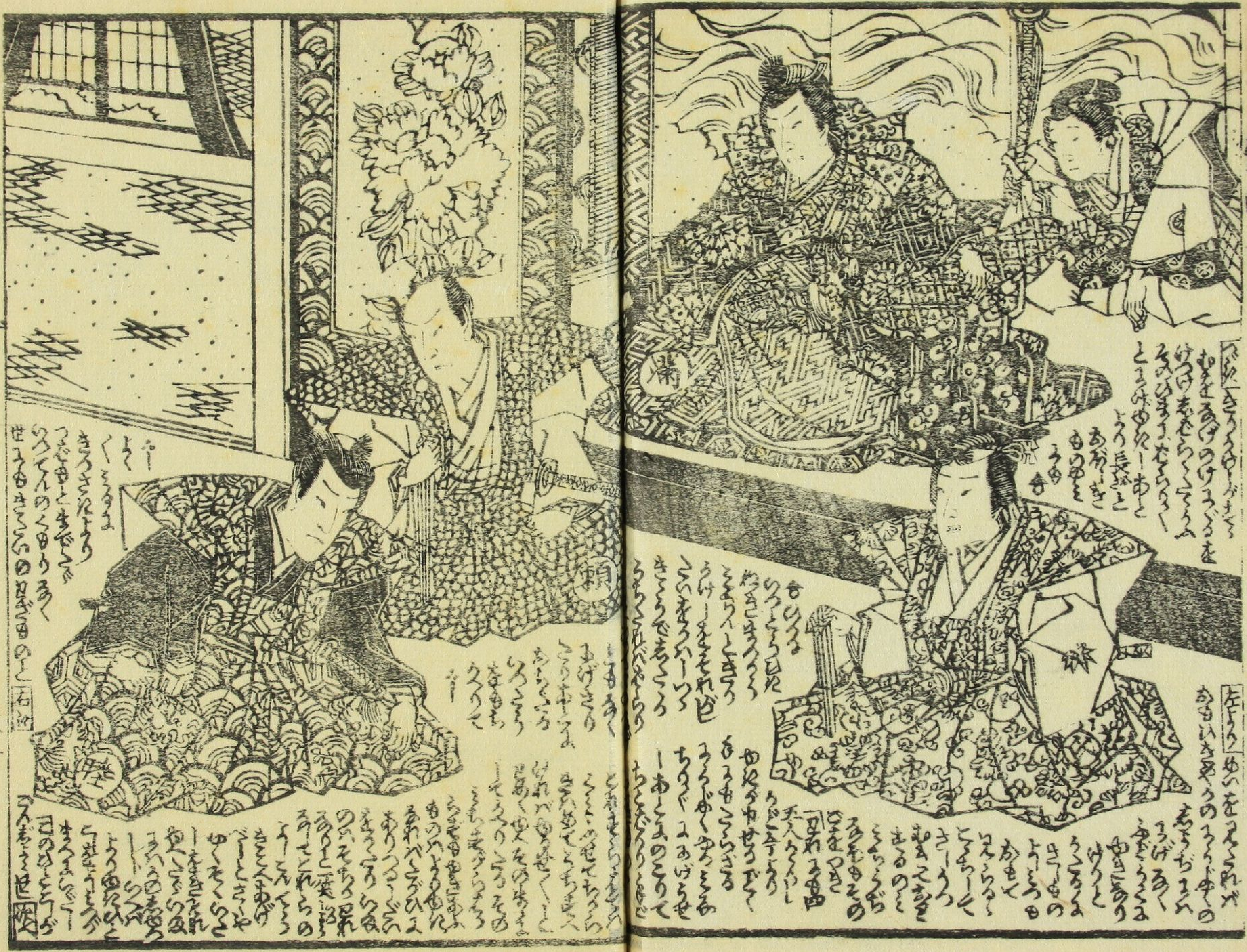







頼


つぎ紀
左ヨリ
右へ



明治七年甲戌陽春開板標目

厚化粧萬年嶋田 八編 九編 十編 春水作 國貞画

室町源氏胡蝶巻 廿三 出板 種彦作 國貞画

鼠祠通夜譚 八編 出板 種彦作 國貞画

童謡妙々車 二十五 出板 種彦作 國貞画

薄俤幼日記 廿編 出板 春水作 國貞画

七ぬひき葛飾譚 十編 出板 種彦作 國貞画

新局九尾傳 十三 出板 春水作 國貞画

筆海四國聞書 十三 出板 種彦作 國貞画

明鴉墨画廼禰襤 十五 出板 種彦作 國貞画

花封箋玉章 十編 出板 種彦作 國貞画

八犬傳犬の双紙 五十五 出板 柳亭作 國政画

南傳馬町壹丁目

蔦屋吉藏板